

こども
子供のインターネットバイブル
あんない
案内いたします

おお さかな
ヨナと大きな魚



ぶん
文: Edward Hughes
え
絵: Jonathan Hay

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick
しゅつばんしゃ
出版社: Mary-Anne S.

60話の第26話

www.M1914.org

Bible for Children, PO Box 3, Winnipeg, MB R3C 2G1 Canada

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

日本語

Japanese



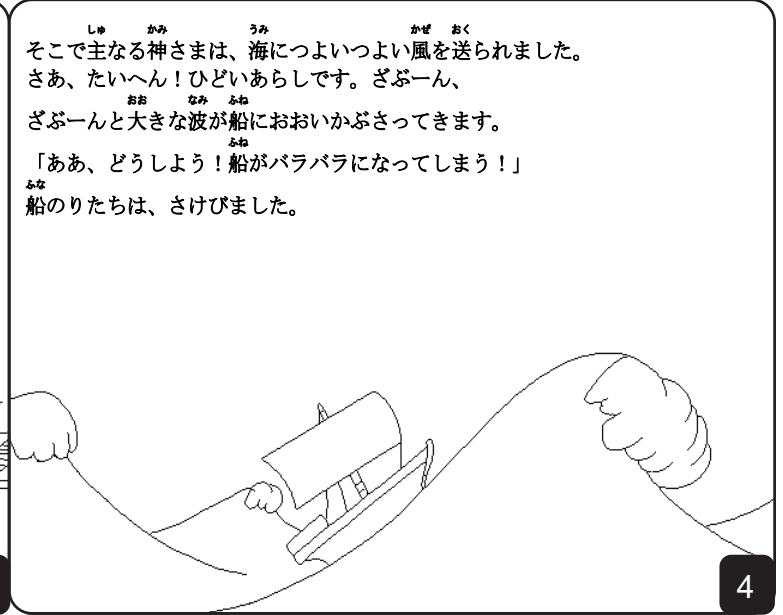
ところが、ヨナは神さまのおっしゃるとおり
にしなかったのです。ニネベへ行くかわりに、
船ののって反対の方、タルシシュにむかいました。



3

そこで主なる神さまは、海につよいつよい風を送られました。
さあ、たいへん！ひどいあらしです。ざぶーん、
ざぶーんと大きな波が船におおいかぶさってきます。

「ああ、どうしよう！船がバラバラになってしまう！」
船のりたちは、さげびました。



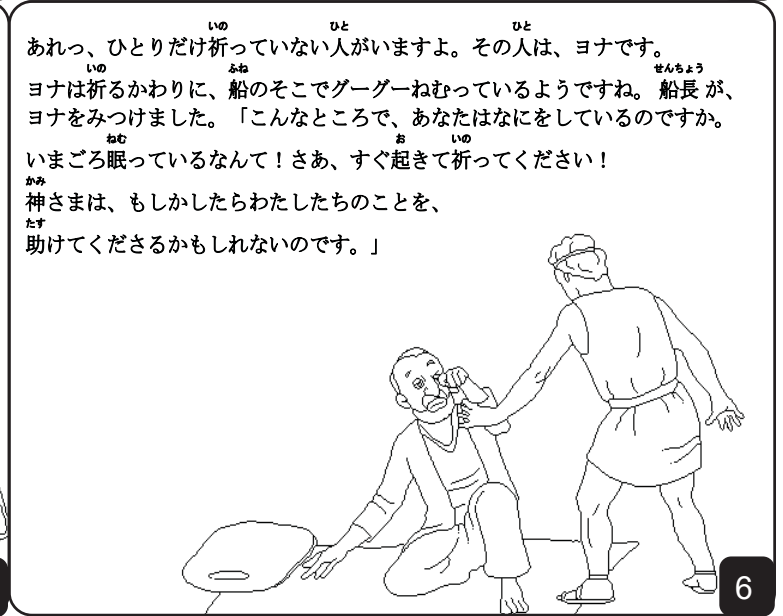
4

あらしは、だんだんひどくなっていきます。船のりたちは、
おそろしくてたまりません。「神さま、どうか助けてください。」
って祈りました。船をかるくしようと、荷もつをみんな海になげこみました。
けれども、あらしはますますひどくなり、
もうすぐ船はしずみそうです。



5

あれっ、ひとりだけ祈っていない人がいますよ。その人は、ヨナです。
ヨナは祈るかわりに、船のそこでグーグーねむっているようですね。船長が、
ヨナをみつけました。「こんなところで、あなたはなにをしているのですか。
いまごろ眠っているなんて！さあ、すぐ起きて祈ってください！
神さまは、もしかしたらわたしたちのことを、
助けてくださるかもしれないのです。」



6

そのとき、船のりたちはこう思いましたよ。
こんなひどいことになったのは、
ヨナのせいにながらないって。なぜってヨナは、
神さまのことを聞かないで、
この船ににげてきたからです。



7

そこで、船のりたちは、ヨナにたずねました。
「おれたちは、いったいあなたをどのようにすればいいのだ。
この海のあらしがしずまるようになるためには。」ヨナはこたえました。
「わたしを海になげこんでください。わたしのせいで、
こんなひどいあらしになってし
まったのですから。」



8

船のりたちは、ヨナを海になげこみたくありません。そこで、みんなはいっしょうけんめい船をこぎました。「さあ、船をこいで岸までいくんだ。」



9

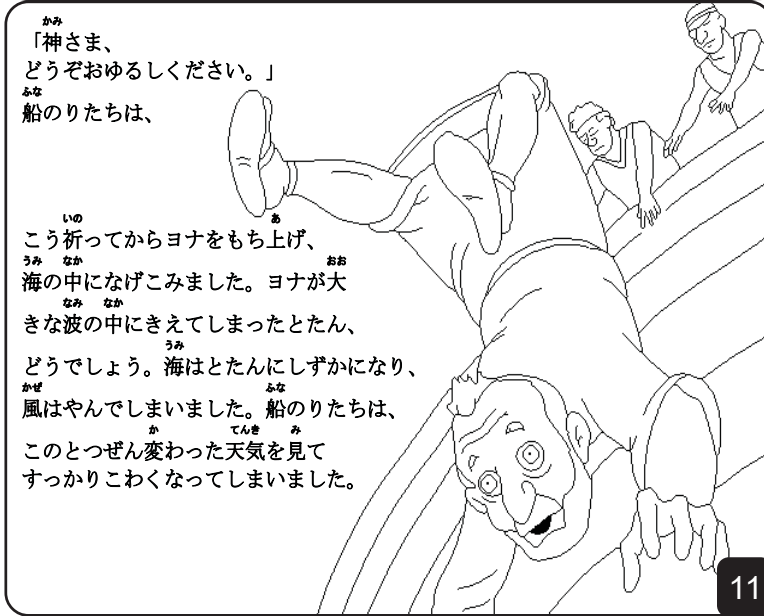
けれども、こいでもこいでも岸までたどりつきません。さて、どうすればいいのでしょうか。助かるほうほうは、ただひとつしかありませんね。



10

「神さま、どうぞおゆるしてください。」船のりたちは、

こう祈ってからヨナをもち上げ、海の中になげこみました。ヨナが大きな波の中にきえてしまったとたん、どうでしょう。海はとんにしずかになり、風はやんでしまいました。船のりたちは、このとつぜん変わった天気を見てすっかりこわくなってしまいました。



11

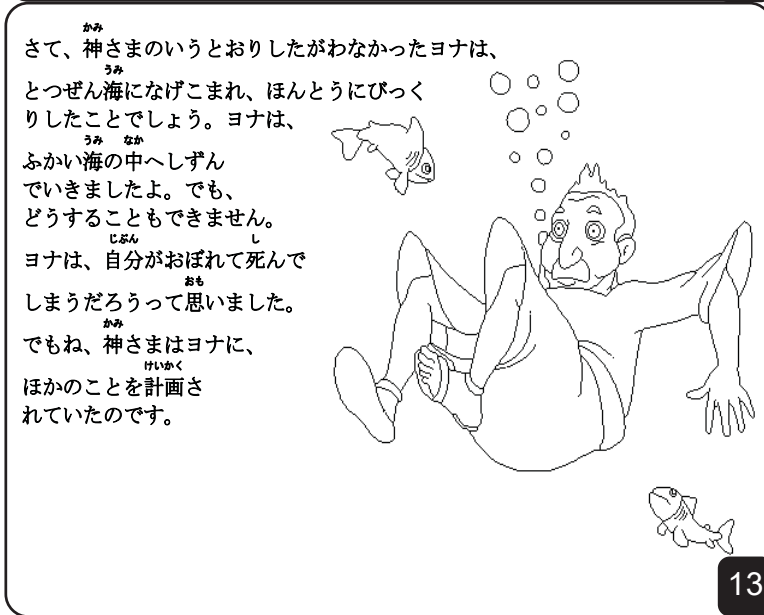
「なぜ、とつぜんあらしがやんでしまったのだろう。」それは、ひどいあらしよりも、

もっともとおそろしいことのように思えました。船のりたちは、今はっきりとわかったでしょう。このようなことがおできになるのは、神さましかいらっしやらないって。かれらは、このふしぎなできごとにごころ心からおどろいて、神さまをおそれながら礼拝しました。



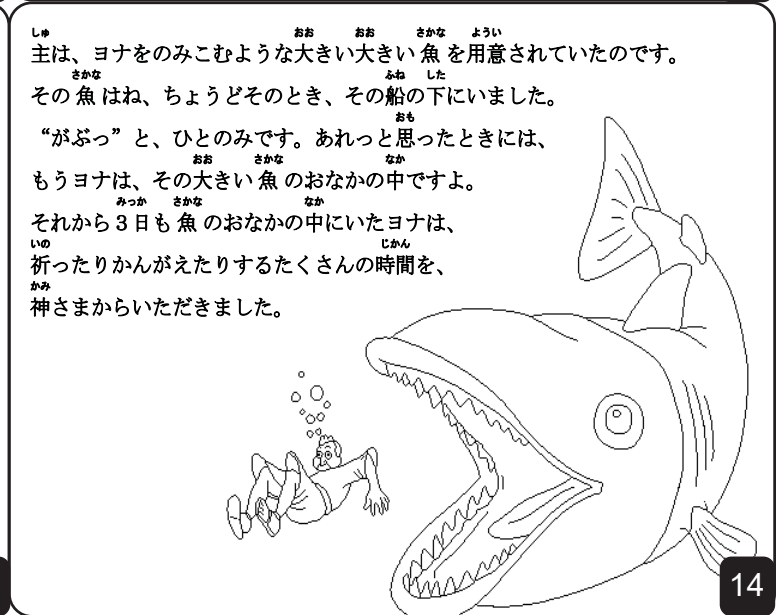
12

さて、神さまのいうとおりしたがわなかったヨナは、とつぜん海になげこまれ、ほんとうにびくりましたことでしょう。ヨナは、ふかい海の中へしずんでいきましたよ。でも、どうすることもできません。ヨナは、自分がおぼれて死んでしまうだろうって思いました。でもね、神さまはヨナに、ほかのことを計画されていたのです。



13

主は、ヨナをのみこむような大きい大きい魚を用意されていたのです。その魚はね、ちょうどそのとき、その船の下にいました。「がぶっ」と、ひとのみです。あれっと思ったときには、もうヨナは、その大きい魚のおなかの中ですよ。それから3日も魚のおなかの中にいたヨナは、祈ったりかんがえたりするたくさんの時間を、神さまからいただきました。



14

ちょうど3日目です。「これからは神さまの言われるとおりにしよう！」
と、ヨナは、やっと心にきめました。するとどうでしょう。
神さまは、すぐに魚に言われました。「さあ、おなかの中のものを、
砂はまに吐きだしなさい。」そして、ヨナは砂はまにうちあげられたのです。



15

神さまはヨナにまた、前とおなじことを言われました。「ヨナ、
ニネベの町へ行き、わたしのことを伝えなさい。」こんどは、
ヨナはどうしたでしょう。もちろん、すぐに行きました。
「40日のうちに、この町はなくなってしまおう。」
と伝えましたよ。



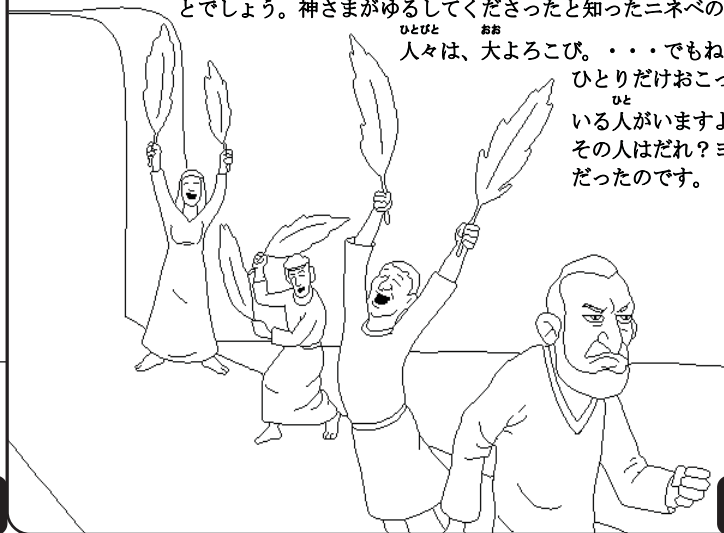
16

ニネベの人々は、神さまの言葉を信じました。人々は、食べることをやめ
て、あらい布のふくを着て、神さまにあやまりました。「神さま、ごめんなさ
い。わたしたちは、神さまにしたがわないで悪いことばかりしていました。」
王さまも神さまに、あたまを下げました。王さまは、王さまだけがすわれる高い
位のイスからおりて、あらい布のふくを着て、灰の中にすわりました。
それから、みんなにめいれいしました。
「さあ、みんな、
もう悪いことはやめるんだ。
争ってはいけない。そして主に
ゆるしてくださいって祈るんだ。」



17

神さまは、ほんとうにみんなをゆるしてくださったのですよ！なんてうれしいこ
とでしょう。神さまがゆるしてくださったと知ったニネベの
人々は、大よろこび。・・・でもね、
ひとりだけおこって
いる人がいますよ。
その人はだれ？ヨナ
だったのです。



18

どうして、ヨナはおこっているのでしょうか。ヨナは、
神さまに言いました。「神さま、わたしは神さまが、
めぐみぶかく、なさけぶかく、すぐに怒られることはなく、
しんせつでやさしい方ということを知っております。」
つまりね、ヨナはわたしたちが悪いことをしても、
「神さま、ごめんなさい。」と言って、
神さまのことにしたがうようになれば、
神さまはいつもゆるしてくださることを、
知っていたのです。でも、
ヨナはきっとニネベの人々が好
きじゃなかったのでしょうかね。
だから、神さまがニネベの人々をすぐに
ゆるされるのは、いやだったのです。

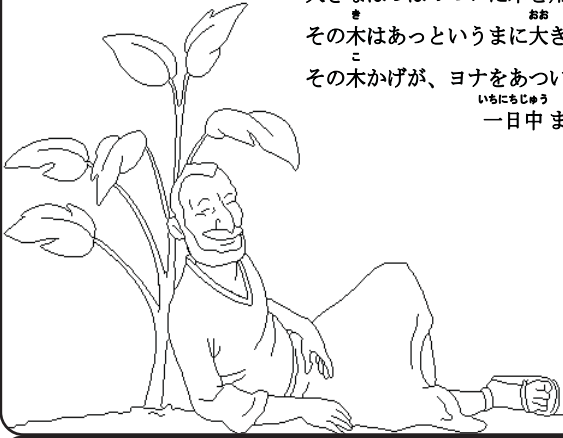
ヨナは、神さまにともおこって、こう言いました。
「神さま、わたしの命を、さっさと取ってしまってください。
生きているより、死んだほうがましです。」



19

20

それから、ヨナは町の外に出ていき、
つぎに神さまが、いったい自分に何をなさるの
だろうと思っていた。主なる神さまはね、
大きなはっばのついた木を用意されましたよ。
その木はあつというまに大きくなり、
その木かげが、ヨナをあつのお日さまの光から
一日中まもってくれました。



21

ところが、つぎの日のあさです。神さまは、木に1ぴきの虫をつかせました。
あれっ、クネクネうごいていますよ。うじ虫それともいも虫？その虫はね、
あつという間にはっばを食べつくしてしまい、その木はかれてしまったのです。
それから主は、あつくてつよいつよい風をおくれました。
ヨナは死んでしまうと思うほどでした。それでヨナは、
ますます神さまに、
おこりました。



22

そこで神さまは、ヨナに言われましたよ。「ヨナ、おまえが
わたしにおこっているのは、正しいことなのか。おまえは
とうごまの木が死んでしまい、かわいそうだと思っ
たことだろう。だが、よくかんがえてごらん、
その木は、おまえがはたらいて育てた
わけじゃないんだよ。」



23

その木は、ひとばんで大きくなり、ひとばんで死んでしま
った。それじゃ、どうしてわたしが、ニネベの人々をか
わいそうと思っはいけないのか。どうしてって、
そのすばらしい町ニネベには、何千人もの人
がすんでいるんだよ、ヨナ。」



24

ヨナと大きな魚

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

ヨナ書

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

詩篇 119:130

神さまは、私たちがよくないことをしたことを、しっぺいらっしやいます。
神さまは、それを罪とよばれています。罪のむくい、死です。

神さまは、私たちをととも愛されたので、み子イエスさまをこの世におくってくださいまし
た。そして、イエスさまが十字架で亡くなられることによって、私たちの罪をとってくだ
さったのです。イエスさまは、よみがえられ天国へ
もどられましたね！ですから、今、神さまはあなたの罪をゆるしてくださいます。

もし、あなたがあなたの罪からはなれたいなら、神さまにこう言ってください。
愛する神さま、私は、イエスさまが私のために亡くなってくださり、よみがえって、今また
生きていらっしやることを信じます。どうか、私のこころの中に入り、罪をゆるしてください
さい。それで、私は今、あたらしい命をいただくことができます。そして、いつまでも、あな
たといつしよにいることができるのです。あなたの子として、生きることができますよう、
たすけてください。アーメン

ヨハネによる福音書 3 : 16

まいにち、聖書をよみ、神さまと、おはなししましょう！